

良質なセンダン核(種子)の選び方

1 背景・目的

主伐再造林の拡大により苗木需要が高まる中、県内における広葉樹苗木生産者が早生樹センダン育苗に関心を寄せている。そこでセンダン育苗技術向上のため、母樹選定や採取する果実の状態の違いによる核(種子)*の発芽や生育状況について調査する。

*センダン果実の果肉を取り除くと1つの核(写真1)があり、さらに核の中に複数種子が含まれる。センダンは種子ではなく核を播いて育苗する。

2 技術のポイント

- (1) 加賀地域において、どの母樹から得られた核(種子)で育苗しても、1年で平均40cm以上の苗木を育成できる(図、写真2)。
- (2) 乾いた果実から取り出した核(種子)は発芽が少ないため、注意する(表)。



写真1 核



写真2 生育した苗木
(3月播種、11月末時点)

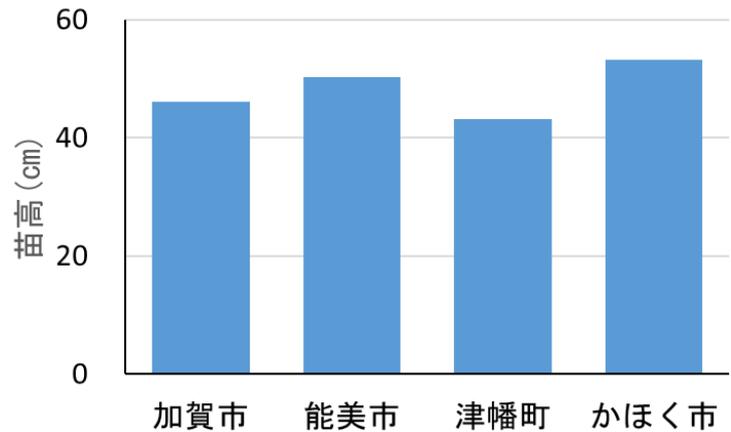


図 加賀地域母樹の核から育苗した苗木の高さ
表 果実の乾燥の違いによる発芽数

	核数	発芽数	核1個当りの発芽数
A	20	22	1.10
B	20	15	0.75

熟して地面に落ちている果実のうち、

A: 乾いてない果実

B: 乾いた果実

3 成果の活用と留意点

- (1) 乾燥した果実を避けて採取することで、効率よく苗木生産ができる。
- (2) 約1日浸水させ水に沈んだ核を用いることで、早い発芽が期待できる。

問合せ先: 森林環境部 TEL 076-272-0673

担当者: 富沢裕子